

presented by *matsurika*

★ R18 ★ ADULT ONLY

深夜零時

{ 深夜零時に君のもの }

Genshin Impact
R-18 Unofficial fanbook
xiaoxaether



じよ

はあ

はあ

はあ

やっつと
着いた!

はあ
はあ
はあ

もー!

璃月は崖が多くて
たいへんだぞ!

そうだね...

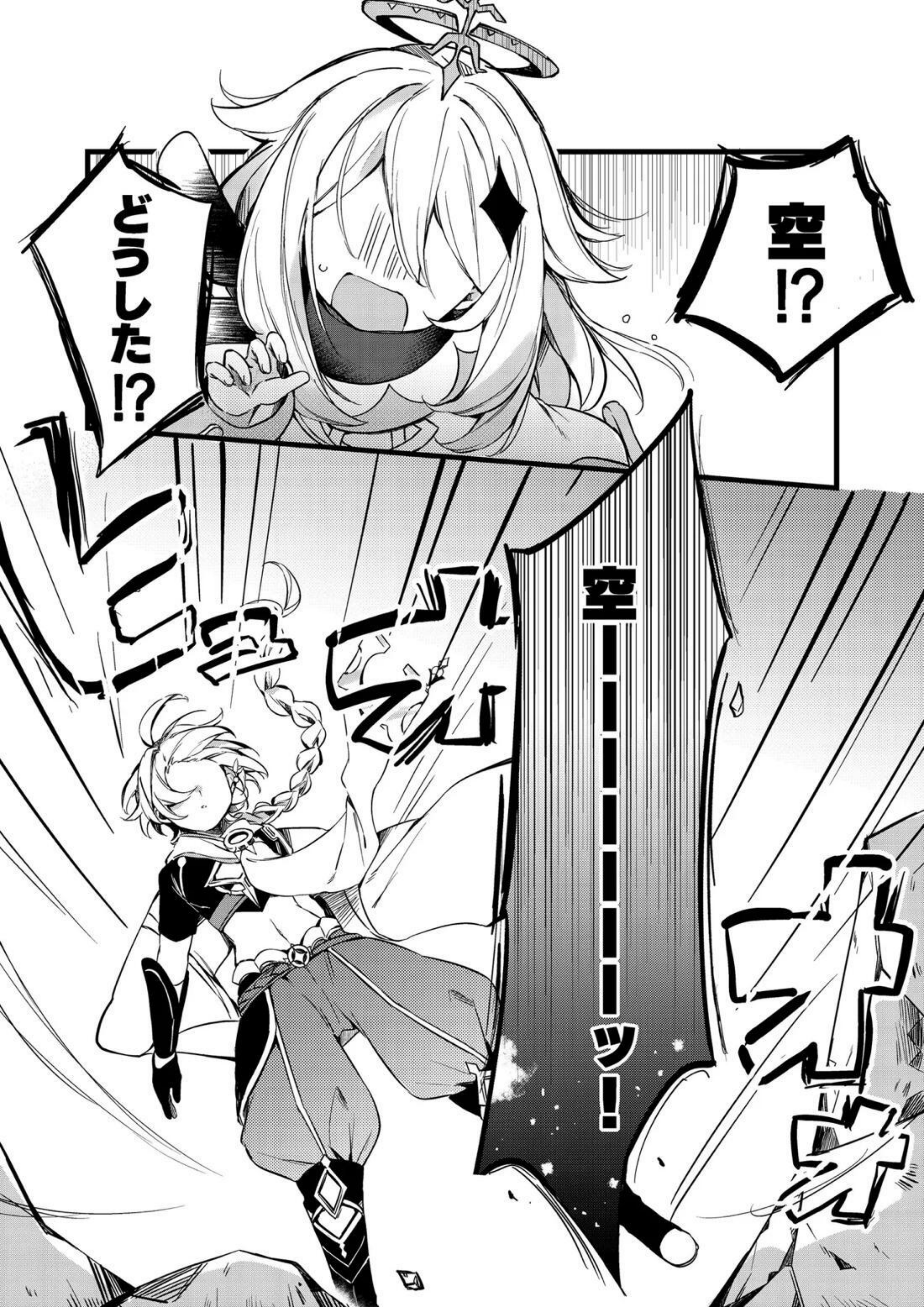


空!
!?

どうした!?

空

——ツ!







魑！

た…
助かったぜ〜！
オイラ心臓が
潰れちやいそう
だったぞ！

有事の際には我を
呼べと伝えてある
筈だが――

……空？





今から旅人の
熱を吸う

見たくなければ
目を背けているろ

へ？
そんなこと
出来…





あ、

は、



発熱していた故、
原因となる体内の
毒素を吸い出した

暫くすれば
楽になるだろう

し、
魑…？
なんで…



目が覚めたか

ん



おっ…オイラ何も
見てないぞ！

本当に見てない
んだからな！！

あ
ひ
か
か
ら

まあオイラは大人だし
ち…チューくらいで
動揺したりしないん
だけどう

パイモンには刺激が
強かったみたい

そこのおに
耳も塞いで…
なんたってオイラは
プライベートを侵害
しない優秀な
ガードで…

目を逸らすよう
予め忠告したのだが

それなら
自己責任だね

パイモン、
そろそろ行こう

おっ
おっ
おう！



魍のお陰で
楽になったよ

ありがとう

ならいい

俺、依頼人に瑠璃袋を
届けないといけない
から

じゃあまた――

待て

依頼人の場まで
同行する

毒素を吸った
とはいえ病み上がり
の身体だ

免疫力自体は
回復していない
故にまた倒れる
可能性もある

それに



お前と会うのも
久方ぶりだ

もう暫く



お前の声を
聞いていたい

とき



それじゃあ

お言葉に
甘えて…



パイモンのこと
追い出しちゃった…

オイラは別部屋あ!?

風邪が移ったら
大変だから。

え〜っ…
で、でもでも…うっ…
安静にしろよ…

ごめん
パイモン…

罪悪感…

でも…

仙人の価値観では、
大したことじゃない
かもしれないけど

魑にあんなこと
されるなんて
思わなかった

唇を食まれて

舌を吸われた
感覚が

頭から
離れない





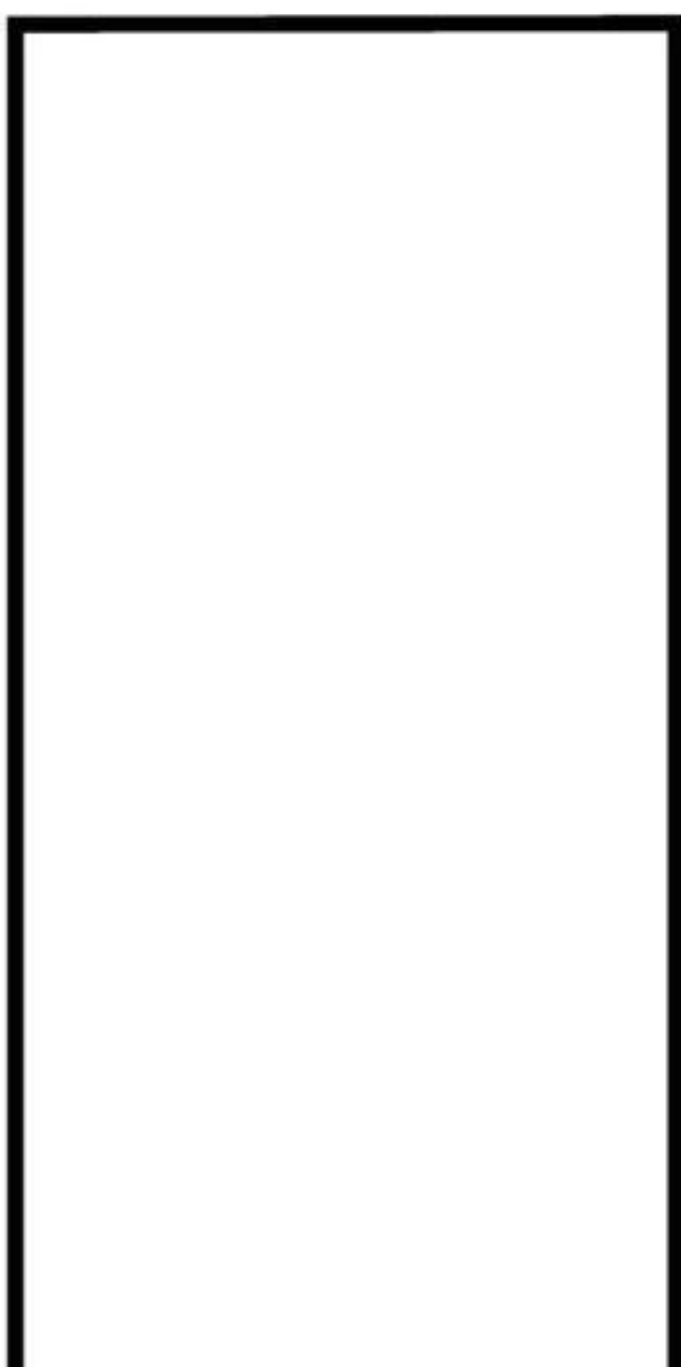
あ、あの細い指で
遅い腕で

深くまで
触ってくれたら…

あ、あの細い指で
遅い腕で

深くまで
触ってくれたら…





助け
て
くれ



一体何事だ
これは

奇、怪、女

頭にキノコが生えているわね

いよ...

今朝からずーっと
こんな感じ
なんだ！

理由を聞いても
ダンマリで

こいつが目に見えて
落ち込むなんて、
珍しいと思わないか？



ふむ

確かに…

ちら

こんな様子の旅人は
初めて見るな

だろ？

ああ…少なくとも
私には原因が
さっぱりだ

あら
そうかしら

私は相当
分かり易いと
思ったけれど

本当か!?
夜蘭

ええ

旅人が口を
割らないなら
当ててあげる

ズバリ

恋のお悩み
でしょう



ふむ
要約すると、

とある事情で接吻を
交わした相手が
偶然旅人の想い人で

どうにか再度
同じことができないか
悩んでいると

うん…

照。。

恋人には
なれなくても

キスさえできれば
もう満足なの？

ガ
タッ

いやーそーいう
わけじゃ…

ハ
ッ…

…ない、
けど

相手に迷惑
かけられ
ないし

そーう

魍は璃月を守る為
業障に苛まれながら
戦い続けている

それなのに、

俺は――

煙緋

交際前の接吻
自体に問題は
ないのかしら

法律上は
ない

そもそも証拠の
提示が厳しいだろう

確かに
なら既成事実には
できないわね

何考えてるの？

ところで

先程から妙に
静かだが

ギクッ

パイモンは
どう思う？

エ……

エト……

現場を見た
んだろう？

おっ

おっ

濃厚な
キスシーン

実際の現場を
見て、相手も
知っている
パイモンなら

よりの確な
アドバイスが
できると思うん
だが……



でもオイラ
そういうのは
あんまり…
ううん



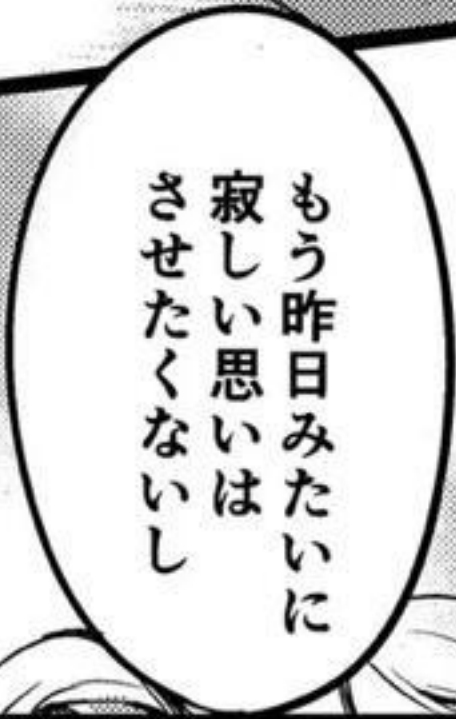
俺が昨日パイモンと
別々の部屋にしたのは
この事で悩んでたから
なんだ



パイモン



でも、離れるのを
すごく嫌がってた
から…



もう昨日みたいに
寂しい思いは
させたくないし



オイラ…
オイラは…



パイモンの意見が
あるなら、俺はそれに
従うよ

空…



オイラ、恋とか
その…そういうの
よくわからないけど



やっぱり、直接
伝えたほうがいいと
思う！



二人ともお互いの
ことが大好きだって
いうのは

近くで見てて
わかるぞ



お前とあいつ、



だから…
隠し事した
ままだと
あいつも
悲しいと思う



それに、あいつという時の
お前はあいつばかり
見てるからな！

うえっ

オイラも
いっしょだよ！



帰離原









身体中の骨が、蝕まれるように痛む

この痛みは報いだ

相応の罰だ

我が身を以て
受けねばならぬもの



穢れを持つ身でありながら、
我は旅人に何を考えている？

無二の仲間と接してくれた
彼に情欲を覚えるなど、
卑劣も甚だしい

我は、旅人を

一体
どうしたいと

はー

はー

空…







此処は…

望舒旅館だよ

望舒旅館…?

我は帰離原にいたと
記憶しているが

うん

地面に倒れてたから
連れてきたんだ

ちん



我に何か…

や！
また今度
にしよう

それよりも
今はまだ寝てた方が
いいんじゃないかな

疲れてるでしょ

稲妻で聞いた
子守唄があるんだ

歌ってあげる

下手くそ
だな

……

そろそろ
眠ったかな

魑

あのさ…

ま
い
が
…

この前

また俺のこと
助けてくれたよね

嬉しかった
魍がいつも俺の身を
気にかけてくれる
こともそうだし

それと、
その…魍に

狡いな
俺

キス、された
ことも

嫌じゃなかったな

寧ろ…

結局 面と向かっては
伝えられないんだ

俺

魑のことが

好き
みたいだ

……
は…恥ずかしいな
やっぱり

眠ってる相手
とはいえ

もぞ
もぞ

こんな体たらくじゃ
パイモンに怒られちゃうな

折角勇気付けてくれたのに

とん

とん



そして我も
お前の唇に
触れてから
というもの

奇妙に心臓が
動くように
なった

お前の身体に
浅ましい欲を抱いて
しまったかと
慚愧に苛まれたが…

どうやら
それだけの感情
ではないらしい

鬼頭…

このような発作を
どう言葉にすべきか
我には考えもつかな
かったが

今しがた
お前が我に使った言葉が
正解だったようだ

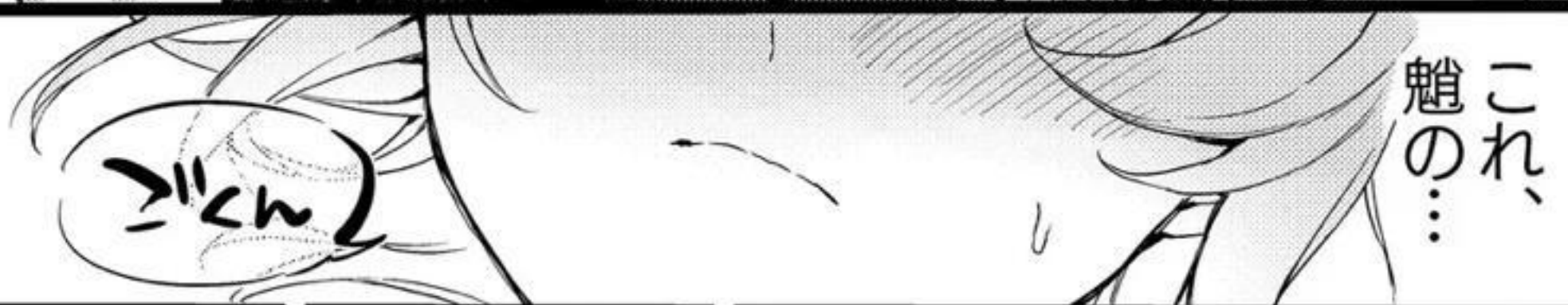
それって
つまり…?

…お前ならば
汲み取れるだろう

つまりは
今ここで

お前と共寝を
している状況が





お前…っ
何をしている

舐めちゃった

舐…っ

軽率な…
私の体液がどう作用
するかも分からぬ
というのに

万が一でも
お前の身体に
害を成せば

我は…

そんな…

大丈夫だよ

だってこっちは
平気だったんだし

ね

っそれと
これとは…



と...♡

魍の
まだ元気だね

んっ...

っ空

俺のも...もう
こんなになってる

俺のこと
こんなにしたの、
君なんだよ

だから

責任取ってよ

魍...♡



…頃合いだろうか

尻を上げろ、空

…顔見ながらしたかったんだけど

魑、もしかしてこの体勢しか
知らないのかな…

マア
あ…♡
あ…♡
バクン！

変になる…っ

おっ♡おく……っ
突かれるの

すっ……い





キスも
しながらが

いい…

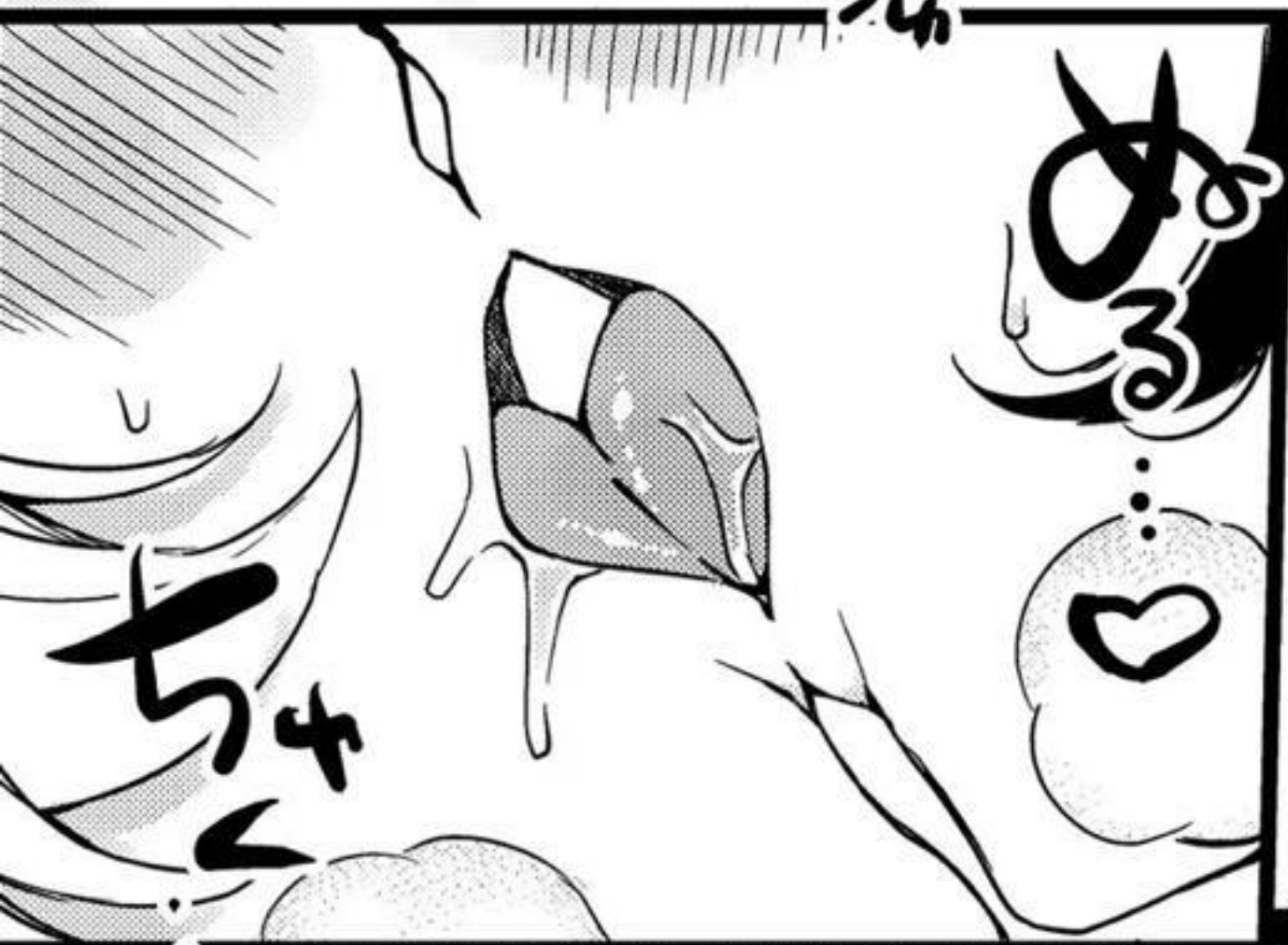
次は

顔…っ
見ながら
したい

待っ…て

もう一度、

そろ…







身体のどこもかしこも
気持ち良くて

このまま溶けて混ざるような時が
ずっと続けばいいなんて、思っ
てしまっけれど



魑も顔
真つ赤になつてゐる...

それでも俺は
明日にはきつと
璃月にはいない

魑だつて

きつとまた妖魔との
戦いに赴くんだらう

空……っ

私の、っ

私の
空……っ

好きだ……っ

それでも魑が、
俺のことを求めて
くれるなら

うん……っ

おれもっ

おれも……っ

俺と楽しいことも
気持ちいいことも
沢山知っていけるなら

今だけは、
懸命に愛を伝えてくれる
この腕の中で

△っ

しゅわ
あ
ちゅ
ん
ちゅ

魑のものでありたい

うわ
うわ
うわ





鍾離！

ここ最近姿を見掛け
ないと思っていたが…

俺の知らない間に
璃月に来ていたんだな

おう！

久しぶりだな！
実は数日滞在
してたんだ

これからモンド
に向かう予定
だぞ！

ほう
それはまた
活発なことだな

急ぎだろうか？
折角の再会だ、共に
茶でもと思ったのだが

俺が払うん
でしょ？

はは
まさか

友であり客人のお前に
そう不躰なことはしない

旅人、少しいいだろうか

／ホントに…／



…おい、
何してるんだ？



ああ、いや…
髪に花弁がついていてな
呼び止めてすまない



それより、
モンドへ発つの
だろう？

そうだ旅人
早く行くぞ！

それじゃ
またな！
鍾離！

おた
た…

ああ
次に来た時は是非
声を掛けてくれ



…今度の旅路も
縁^{えにし}がお前を守るだろう

旅人



彼が身体に
纏っていた
仙の気

随分と濃く…且つ
簡単には解けないよう
複雑に掛けられていた

あれは
おそろく…



ふっ

はは！



どうやら俺の
手助けは不要
だったらしい

喜ばしいことだ



君

深夜

無断転載及びオークションやフリマアプリなどへの転売はご遠慮ください。

{ 深夜零時に君のもの }

Genshin Impact

R・18 Unofficial fanbook

xiaoxaether

presented by *matsurika*

の

もの

の

零

時

に